



学校法人 城西大学

<http://www.josai.jp/>

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

城西大学
城西短期大学 <http://www.josai.ac.jp/>

坂戸キャンパス
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

東金キャンパス
〒283-8555 千葉県東金市求名1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

幕張キャンパス
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
TEL. 043-297-2521

次世代育成・健康推進・グローバル教育・地域活性化への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

2008

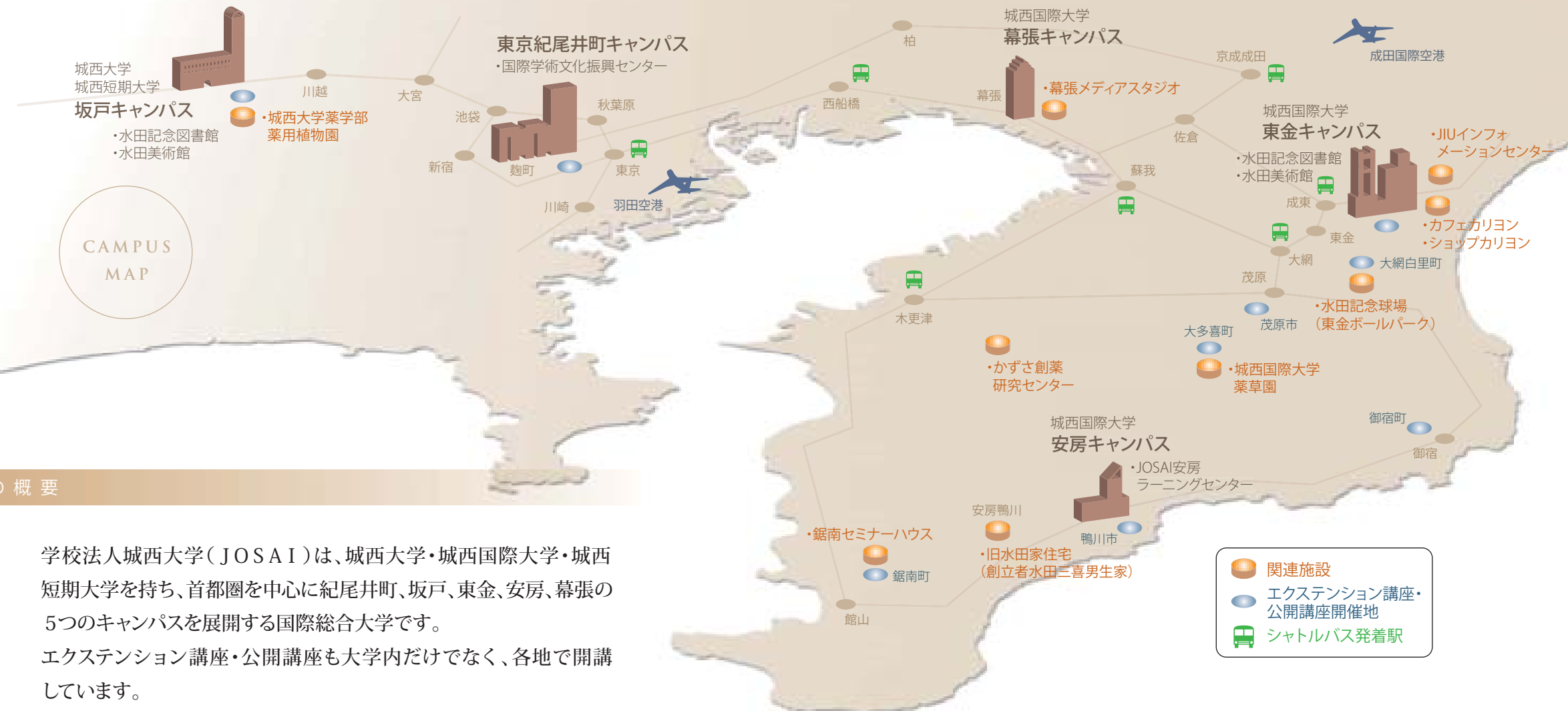
JOSAI UNIVERSITY

JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人 城西大学

CAMPUS MAP



大学の概要

学校法人城西大学(JSAI)は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に紀尾井町、坂戸、東金、安房、幕張の5つのキャンパスを展開する国際総合大学です。
エクステンション講座・公開講座も大学内だけでなく、各地で開講しています。

城西大学

坂戸キャンパス

- 経済学部 □ 経済学科
- 現代政策学部 □ 社会経済システム学科
- 経営学部 □ マネジメント総合学科
- 理学部 □ 数学科
- 化学科
- 薬学部 □ 薬学科(6年制)
- 薬科学科(4年制)
- 医療栄養学科
- 大学院 □ 経済学研究科 経済政策専攻修士課程
- 経済学研究科 ビジネス・イノベーション専攻修士課程
- 理学研究科 数学専攻修士課程
- 理学研究科 物質科学専攻修士課程
- 薬学研究科 薬学専攻博士後期課程
- 薬学研究科 薬学専攻修士課程
- 薬学研究科 医療薬学専攻修士課程
- 薬学研究科 医療栄養学専攻修士課程
- 別科 □ 日本文化専修課程
- 日本語専修課程

城西国際大学

東金キャンパス

- 薬学部 □ 医療薬学科(6年制)
- 福祉総合学部 □ 福祉総合学科
- 経営情報学部 □ 総合経営学科
- メディア学部 □ メディア情報学科
- 国際人文学部 □ 国際文化学科
- 国際交流学科
- 大学院 □ 人文科学研究科
- 経営情報学研究科
- ビジネスデザイン研究科
- 福祉総合学研究科
- 留学生別科 □ 日本文化専修課程
- 日本語専修課程
- ビジネス・情報専修課程

安房キャンパス

- 観光学部 □ ウェルネス・ツーリズム学科

幕張キャンパス

- メディア学部 □ メディア情報学科

城西ベースカレッジ

〈城西短期大学〉

坂戸キャンパス・東京紀尾井町キャンパス

- ビジネス総合学科 □

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

坂戸キャンパス
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

東金キャンパス
〒283-8555 千葉県東金市求名1番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

幕張キャンパス
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
TEL. 043-297-2521

CONTENTS

- 3 理事長緒言
次世代育成、健康推進、グローバル教育、地域活性化への取り組み
大学の社会的責任を果たすために
- 地域・社会貢献活動
- 5 生涯教育を各地で展開
- 6 東金地域の活性化
- 7 坂戸市との取り組み
- 9 健康で豊かな人生を過ごすために
- 11 ボランティア活動
- 国際社会への貢献
- 13 学会・シンポジウムの開催
- 15 アジアでの交流と支援
- 16 文化・出版活動を通しての貢献
- 17 同窓生との連携
- 文化振興・文化資源保存活動
- 19 房総地域の活性化
- 20 文化財産の保存・共有
- 21 文化財修復・保存
- 22 建築賞受賞
- 新しい取り組み
- 23 子どもたちとともに
- 24 政策提言による社会貢献
- 25 Message
- 26 編集後記



学校法人城西大学
理事長
水田宗子

次世代育成、健康推進、グローバル教育、地域活性化への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に5つのキャンパス（紀尾井町、坂戸、東金、鴨川、幕張）において、大学としての社会的責任を果たすべく、次世代育成、健康推進、グローバル教育、地域活性化をキーワードに、大学における教育・研究に加えて、地域・社会貢献、文化振興・文化資源保存活動、国際社会への貢献など、多岐にわたって活発な活動を展開してまいりました。その中の代表的な取り組みについて、この冊子に紹介しましたので、ご覧ください。

地域・社会貢献活動 各キャンパスにおいて、大学の学部や立地などの特徴をいかしたエクステンション講座を開講し、毎年多くの受講生で賑わっています。大学内での開催だけでなく、近隣の地方自治体へ出向き講義を行う「出張講座」も長年続けてきています。

このエクステンション講座に加えて、城西大学・城西国際大学には、さらに地域の人が健康で豊かな人生を過ごすことができるよう「健康市民大学」「シニア・ウェルネス大学」を開設致しました。

◆ **JU(城西大学)** では、2007年に埼玉県とリカレント教育に関する協定書を締結し、多くの埼玉県民の方々が、希望する学部で学んでいます。薬学部では薬局を持ち、薬の飲み方の指導や食物による自己管理のためのレシピの配布、健康に関する講座も開講し、新しいスタイルの薬局として地域に貢献しています。

◆ **JIU(城西国際大学)** では、学生たちや福祉総合学部生、吹奏楽団、手話クラブなどの多くのボランティア活動団体が介護施設などを慰問公演、バザーなどでの上はすべて施設に寄付をしています。これらの活動に加え、多くの学生たちが継続して参加している地域の清掃活動に対し、2008年度500万人目の“小さな親切実行章”を受賞しました。

国際社会への貢献 活動の拠点となる国際学術文化振興センター（JICPAS）を設置致しました。日本に関する論文を世界に紹介する英文誌（Review of Japanese Culture and Society・日米女性ジャーナル）出版活動のほか、日中短詩協会の設立、ハンガリー文化センターを設立、コンサートやイベントを開催しています。

姉妹校の大連理工大学へは、水田記念文庫、水田宗子奨学金の寄贈を行いました。これは、国際人として日本を学ぶ次世代の学生の育成のためのものです。また、東京紀尾井町キャンパスにおいて、第15回AJLS（アメリカ日本文学会）を開催、その後、第4回日・韓次世代学術フォーラム、さらに2009年5月には第50回SCMS（アメリカ映画・メディア学会）の開催も決定しています。

このように、世界各国の大学との共同研究の推進、さまざまな国際会議・シンポジウム、コンサートを多数開催しています。

2008 JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE

文化振興・文化資源保存活動 両大学に水田記念美術館を設置、創立者水田三喜男の浮世絵コレクションの一般公開をはじめ、地元ゆかりの画家の特別展を催しており、多くの方々にご来場いただいております。また、学校法人城西大学創立者水田三喜男生家を修復・保存（文化財登録）、曾呂尋常小学校分教場の保存も手がけました。さらに、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の桜並木の修復もJIU観光学部と地元の方々が一緒になり、桜並木が鋸南町まで続くよう大切に大きく育てています。

【建築賞受賞】 各キャンパスや施設では、自然との調和に心を砕き、いくつもの建築賞（清光会館：1992年さいたま景観賞、鋸南セミナーハウス：2005年第12回千葉県建築文化賞／第32回東京建築賞建築作品コンクール優秀賞、JU経営学部棟：2008年全米建築学会Merit賞、JIUランドスケープデザイン：1996年日本建築学会賞・2006年日本造園学会賞、水田家生家：2003年第10回千葉県建築文化賞）を受賞しています。

新しい取り組み 次世代を担う子供たちへの働きかけと共に、力を入れているのが「政策提言」です。これは、私どものキャンパスの一つが、政策決定の中核機関となる永田町にも霞ヶ関にも近い紀尾井町に位置することから、「大学の知」を政策提言につなげ、国家の福祉に役立ちたいという志によるものです。

私どもは、2015年に城西大学が創立50周年、2012年に城西国際大学が創立20周年を迎えます。これまでの地道な活動を大切にしつつ、これからも継続的に、次世代に文化を伝え、人材を育成し、健康で豊かな暮らしのため大学の「知の還元」をはかり、国内外の文化・研究交流の推進に取り組んでまいります。

本冊子を通して、学校法人城西大学の取り組みについて、ご理解いただければ幸いです。

学校法人城西大学
理事長

水田宗子

生涯教育を各地で展開(地域活性化)

他大学に先駆け、生涯教育をスタート

城西大学では、1985年に国際文化教育センターを設立し、他大学に先駆けて、「開かれた大学」と「生涯教育」を目指して、学生・社会人を対象としエクステンション・プログラムを開発しました。大学の学部や立地などの特性をいかしたエクステンション・プログラムが特色です。

■城西大学では、薬についての知識など学部の専門的知識を還元する講座のほか、秩父の歴史など近隣の郷土・文化に目を向けた講座、また語学講座、気功・太極拳・ヨガ・薬膳料理などの健康講座、茶道・華道・女性学などの教養講座を開講しています。

■城西国際大学では、水田清子名誉理事長自らが指導者として俳句のクラスを始めるなど、文化・芸能・美術に関連する講座があり、また、出張講座として、なかなか大学まで来られない方のために房総の各地に講義に出向いています。

■東京紀尾井町キャンパスでは、紀尾井町の地を活かし、国立劇場と連携の歌舞伎講座、アテネ・フランセと連携したフランスの歴史や文化の講座、退職後の自由な暮らしを考えるロングステイ講座、映画、オペラ、古典、環境などのクラスを開講しています。また、会員相互の親睦を深めるJOSAI KIOI CLUBを組織し、レクチャー&コンサートとして、「ツィンパロン*1コンサート」や「カヤグム*2コンサート」なども開催しています。

*1 ツィンパロン：ハンガリーの打弦楽器、世界で最も大型化した打弦楽器といわれる。

*2 カヤグム(伽倻琴)：韓国の伝統楽器、12絃の弦楽器。



カヤグムコンサートの様子

埼玉県とリカレント教育に関する協定書を締結

城西大学では2007年に埼玉県とリカレント教育に関する協定書を締結し、多くの埼玉県民の方々が、希望する学部で学んでいます。

・リカレント教育受講生 黒崎勝行さんの感想

私は日頃の日和見主義的な生活の中で、自分の脳に学問という活を入れて「脳の活性化」に挑戦するために、埼玉県の「大学によるリカレント教育」に申し込み、城西大学の授業を受講することにしました。

城西大学のキャンパスは広々として木々も多く、キャンパス内を散策もできて、私の脳を活性化するには最高の環境だと思います。

城西大学では前期に「自然科学概論」を受講し、後期からは「ハーブ論」を受講しています。どちらも最初はチンプンカンプンな内容でしたが、時間を重ねることに授業内容を理解出来るようになりました。

私が大学で授業を受けていることは、社会に対する恩返しのための知識・学問だと思います。今後も命ある限りリカレント教育の授業を受け続けたいと考えています。



埼玉県上田知事とリカレント教育に関する協定を結ぶ



黒崎勝行さん

東金地域の活性化(地域活性化)

シャッターに東金の四季を描き出す

東金シャッター・グラフィック・プロジェクトは、東金商工会議所「基本戦略推進委員会」からの依頼を受けて、空洞化が目立つ旧道商店街の活性化に貢献するため、城西国際大学メディア学部の学生たちが東金駅西口商店街のシャッターに東金の四季を描きました。

春の八鶴湖、夏のやっさ祭、秋の松之郷のぶどう狩り、冬の雄蛇ヶ池を、メディア学部の学生と東金市にある東金商業高校の生徒13人と連携して制作を進め、ペイント作業には姉妹校の中国伝媒大学からの留学生もまじえて完成させました。

今後はシャッター絵画の前で、地元産品を販売する「市」や夜間ライトアップなど、商店街のにぎわい創出のための各種イベント開催が予定されています。



商店街のシャッターに東金の四季

街の景観美に貢献 ビルボード(看板)・プロジェクト

城西国際大学東金キャンパス正門前に、春の桜、夏のヒマワリ、秋のコスモス、冬のスイセンなど四季折々の花々をイラスト看板に描くプロジェクトを行いました。「花」をつうじて生命力や癒し、空や大地の「元気」をコンセプトにしたこの原画はデザインを学習する学生が中心となり、英国バース・スパ大学からの留学生も参加して作成しました。またペイント作業には、姉妹校の大連外国語大学、中国伝媒大学、天津外国語学院からの留学生も参加しました。



空に映える花々

地域の方々からは「のどかな気分で季節の花を楽しんでいます」との声も届いています。東金商工会議所からこのプロジェクトに対して、作業着30着の寄贈をいただきました。

東金にてポスター制作 デザイン力で街おこし

城西国際大学メディア学部ではビジュアルデザインやコミュニケーションデザインを学習、研究するひとつのプログラムとして、大学が立地する千葉県と東金市に関わるテーマでポスターを制作しています。千葉県、東金市をデザインサーベイ(探査)し、地域社会にデザイン力で提案する、また、デザイン力で貢献することを目的としています。

本来デザイン制作は受注業務ですが、このポスター制作では学生が千葉県、東金地域で顧客を自ら探し出して制作しています。顧客との交渉では、企画力、コミュニケーション力、調整力、社会性などの諸能力の必要性が実感されます。なかには実際に使用されるポスターもあり、学生の励みになっています。



地域をポスターで表現

坂戸市との取り組み(地域活性化)

彩の国清流高麗川ウォーキング

坂戸市観光協会が主催して、2006年から行われている「彩の国清流高麗川ウォーキング」は、北坂戸駅西口をスタート地点とし、高麗川のせせらぎを聞きながら約12kmのコースを歩くもので、城西大学がゴールになっています。

2008年は、大学祭「高麗祭」が開催されている11月2日に開催されました。午前10時にスタートした参加者は、坂戸市の自然を楽しみながら、ゴールの城西大学を目指して歩きました。城西大学経営学部の学生たちが、ボランティアとしてコースの各ポイントで参加者を誘導して、円滑なイベントの進行に尽力しました。

また、城西大学構内では、学生たちが参加者のために飲食店等の模擬店を出し、大学マスコットのジョーくん・コマちゃんと一緒に、ゴールを暖かく迎えました。ウォーキングと高麗祭の両方を楽しむことができた参加者のみなさんは満足された様子でした。



参加者を迎えて

お釈迦祭り(指定無形文化財)と花魁道中

城西大学経営学部では、「まちづくり」という授業のなかで、坂戸市のまちづくり事業の一環としておこなわれているイベントへの運営協力をしています。

坂戸市の永源寺で毎年5月5日に行われる釈尊降誕祭(お釈迦祭り)は、市の指定無形民俗文化財に指定されています。このお釈迦祭りに合わせて開催される花魁道中に、城西大学経営学部の女子学生4名が参加し、坂戸市民とともに豪華絢爛な衣装をまとうて境内をねり歩きました。

また、経営学部と剣道部の男子学生40名が、パレードを行う道中の整備のため、ボランティアとしてロープ張りを手伝い、パレードの進行と観覧者の安全確保に協力しました。



学生が参加した花魁道中

さかど元気朝市

2008年5月5日と7月19日の早朝より、坂戸駅周辺の活性化を目的に坂戸駅北口「パーキング坂戸」にて「さかど元気朝市」が開催され、経営学部の学生200名が参加しました。

学生たちは坂戸市の農家が作った野菜の販売や、こどもの日に合わせたイベントの手伝い、また、神輿の担ぎ手や、大学のマスコット、ジョーくん・コマちゃんの着ぐるみで登場するなどして朝市を盛り上げました。7月19日は昼から七夕まつり、夕方から夜祭りが開催されることもあって、多くの市民が来場し、用意していた野菜は飛ぶように売れました。また、学生が進行役をつとめた射的や、ミニ機関車、ブーメランゲームなどには、子どもたちの長蛇の列ができ、夕方の夜祭りでも様々な催しがあり大盛況でした。



地元の野菜を販売

坂戸市との取り組み(地域活性化)

坂戸よさこい

城西大学では所在地の坂戸市が8月中旬の土曜日、日曜日におこなっている「坂戸よさこい祭り」に参加しています。毎年、城西大学経営学部の学生と城西大学ダンスサークル「Shoelace」、経営学部教職員が参加し、限られた練習期間にも関わらず、堂々としたよさこいを通りやステージで披露して、観覧者から大きな拍手をいただいています。

また踊りへの参加以外にも、焼きそば・小籠包・餃子や飲み物を販売する店や、コンピュータの相談コーナーを出し、祭りに積極的に協力しています。

2008年は、「坂戸よさこい」のボランティア委員として城西大学の学生200名以上が、よさこい祭りの裏方として様々な活動に関わりました。



大学のはっぴを着てよさこい

坂戸駅北口イルミネーション

クリスマスシーズンになると、坂戸駅北口にある駐車場「パーキング坂戸」にて坂戸市中心商業地域研究会が主催する坂戸駅北口イルミネーションまつりの点灯式が開催されます。このイルミネーションは11月末から約1ヶ月半行われ、市民のみなさんも、飾らなくなった電飾や飾りを寄付して市と一体となって盛り上げています。

城西大学からは、経営学部のまちづくり授業を履修している学生100名がボランティアとして点灯式に参加して、炊き出しや模擬店の手伝いなどをしました。また、学部生や大学院生がコンサートを開き、ダンスサークルがヒップホップダンスを披露し、駅伝部が市民のみなさまからの応援に対する感謝のあいさつをするなど式典を大いに盛り上げました。

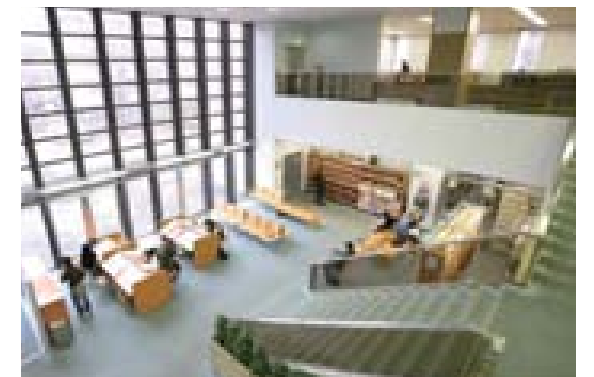


注目を集めたダンスサークルのステージ

水田記念図書館を市民に開放

城西大学の水田記念図書館では、所蔵する資料を必要とする一般市民に対して広く学習・調査または研究を支援し、学術情報資源の効果的な活用を地域に拡大することを目的として、2008年4月より、近隣地域に在住・在職している方を対象に、貸出サービスが利用できる「ライブラリーカード会員」制度を開始しました。

これに伴い、開館時間を平日午後9時迄・日曜日開館と営業時間を大幅に拡大させて利用者サービスの向上を目指しています。また、会員の方には、大学～坂戸駅・大学～高麗川駅のスクールバスも利用いただけるようになりました。



広々とした図書館

健康で豊かな人生のために(健康推進・地域活性化)

「健康市民大学」「シニア・ウェルネス大学」を開設

学校法人城西大学では国民に対する社会保障の維持と医療費や介護・福祉費用の抑制を目指す国の施策のひとつ、「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」に依って地域社会との協同事業として、城西大学に「健康市民大学」、城西国際大学に「シニア・ウェルネス大学」を設けました。

これは“美しく健やかに生きる”をテーマにした社会活動です。

健康日本21は基本方針として、①傷病に対する一時予防の重視、②健康づくり支援のための環境整備、③科学的根拠に基づく目標の設定と評価、④多様な実施主体による連携のとれた効果的な運動の推進を掲げています。

本学では、建学の精神である「学問による人間形成」のもと、薬学部が目指す栄養・食生活の適正化を核とした健康づくり、スポーツ活動の支援、本学が有する知的財産の地域社会への提供、地域活性化への貢献を目的として活動しています。

城西大学では、薬学部医療栄養学科のノウハウを活かした調理実習、箱根駅伝に創部3年目から6回連続出場している男子駅伝部の培った実績を還元したプログラムなどがあります。城西国際大学では、薬学部でのサプリメント活用についての講義、経営情報学部健康・スポーツマネジメントコース講師の実技、薬草園へのツアーなど、両大学それぞれの特性を生かしたカリキュラムを準備しています。



駅伝部員によるトレーニング指導

- ◆ JU 健康市民大学 <http://www.josai.ac.jp/~kenko/index.htm>
- ◆ JIU シニア・ウェルネス大学 <http://www.jiu.ac.jp/senior/index.html>

城西大学薬局では新しいスタイルの薬局を提案

「城西大学薬局」「城西大学薬局毛呂本郷店」は2008年4月に、薬学教育の変遷と医療法上における医療提供施設としての位置づけや医療連携体制の中でその機能が明記されたことを踏まえて、地域医療の実践を体験できる場を教育・研究に取り込み、地域にあるべき理想の薬局を追求・具現化するために開局しました。

開局を記念し、2008年11月30日に毛呂山町の福祉会館にて、大学の講師による講演会「健康食品の選び方&最適なお薬とのつきあい方」を行いました。

薬局としての機能はもちろん、薬学部を持つ大学の強みを活かし、医療栄養学科で作成した健康レシピの配布を行うなど、利用される地域の方々に役立つ知識を提供しようと工夫をしています。



健康レシピ

健康で豊かな人生のために(健康推進・地域活性化)

両大学に薬草園を保有

・城西大学薬学部薬用植物園(坂戸市)

城西大学、城西国際大学は、ともに薬学部をもち、学生の教育、研究材料に必要な薬用植物を栽培するために薬草園を備えています。

薬用としての植物の利用は、健康を願う人々の永い経験の積み重ねによって築きあげられた生活の知恵とも言えるものです。薬用植物は現在でも、民間薬、漢方薬や医療品など多くの分野で利用されています。

城西大学では、特に重要な薬用植物の試験栽培及び保存にも力を入れており、日本植物園協会第四部会の共同栽培研究に参加してシャクヤクやコガネバナの栽培研究を行ったり、埼玉県指定天然記念物「ステゴビル」の保存栽培もしています。

・城西国際大学薬草園(大多喜町)

城西国際大学では、大多喜町より薬草園の指定管理者として指名を受け、薬学部が管理運営を行なっています。緑に囲まれた約16,000平方メートルの園内に約350種の薬用植物を集め、使用目的などにより各植物園に区分して植栽してあります。資料館展示室には、生薬標本など薬用植物に関連する資料ならびに薬用植物に関する説明機器を備えています。平成7年竣工の研修館では、本学が主催する公開講座が定期的に開催されるほか、学内外の各種団体のセミナー(予約制)などにご利用いただいています。

薬草園は大学が主催する地域の方々への公開講座をはじめ、薬学部在学に対する見学授業、他学部にも所属する教員・学生向けのプロジェクト教育やシニア・ウェルネス大学見学会など、様々なかたちで本学の教育拠点として、また地域の皆様への情報発信の基地として活用されています。



効用をたしかめながら園内見学

心やすらぐハーブティ

薬草園では、来園された方にハーブティの試飲をしていただいています。園内にあるカモミール、ペパーミント、ベルガモットなどを使って淹れるハーブティは、それぞれの効用もそうですが、その香りが心も体もリラックスさせてくれます。

- ◆ JU 薬学部薬用植物園 <http://www.josai.ac.jp/~yakuen89/>
- ◆ JIU 薬草園 <http://www.jiu.ac.jp/yakusouen/index.html>



〈城西国際大学薬草園(大多喜町)〉

さかど葉酸七彩カレーの開発

「さかど葉酸七彩カレー」は、埼玉県坂戸市が2006年11月、安倍内閣総理大臣(当時)から健康づくりに関して全国で唯一認定された地域再生計画の成果として誕生した製品です。

坂戸市内にある3大学(女子栄養大学・城西大学・明海大学)の健康づくりに関するノウハウを活かし、JAいるま野の坂戸市地場産の葉酸を豊富に含む7種類の野菜(ほうれん草、小松菜、ブロッコリーなど)を組み合わせ、摂取しにくい葉酸が容易にとれるよう50種類のスパイス・ハーブ入りのご当地カレーとして製品化されました。



さかど葉酸七彩カレー

ボランティア活動(地域活性化)

JIU 吹奏楽団 介護施設へ慰問公演

城西国際大学吹奏楽団では、開学当初より月に一度のペースで、大学近郊の老人ホームや福祉施設を訪問し、慰問コンサートを行っていて、大変喜ばれています。

老人ホームでは皆さんがよく知っている日本民謡メドレーや演歌メドレー、児童施設ではアニメの主題歌を曲目に入れ、訪問先の方々も一緒に歌えるように工夫しています。

また、毎年8月には夏休みを利用して楽団OBが勤めている福祉施設をたずねて、慰問演奏旅行を行っています。



老人ホームでのコンサート

JIU 福祉総合学部のボランティア活動紹介

・施設への訪問

福祉総合学部では、実習や課外活動で、また学内で掲示しているボランティア募集を見て集まった学生たちが特別養護老人ホームや児童福祉施設を訪問し、ボランティア活動を行っています。課外活動では、ボランティアサークル「スターダスト・キッズ」の学生達が芙蓉荘(特別養護老人ホーム)やマザーズホーム(児童福祉施設)への訪問を96年から継続しています。

・福祉体験学習のサポート

山武市立鳴浜小学校の総合学習科目のなかの福祉体験学習をサポートしています。子どもたちは、「スターダスト・キッズ」の学生による手話入門講座で、『千葉県』や『ディズニーランド』を表す手話、また『こんにちは』『トイレに行きたい』など簡単な会話を勉強したり、アイマスクを用いて視覚障害者体験をしました。事前指導として、とくに視覚障害の人をサポートするとき、どのような点に注意しなければならないかについて詳しく説明がなされ、2人1組になって各10分ずつ視覚障害者とサポートする人の両方を体験しながら学内を歩いてみました。

参加した小学生が福祉に対して興味を持つきっかけとして、また福祉学部の学生にとっては自分たちの持つ知識を伝えることで、さらなる学習意欲が高まる契機となりました。



小学生の福祉体験学習をサポート

JIU 防犯パトロール隊を結成 活動中

2007年9月に地域の安全に貢献しようと、学生達が『JIU防犯パトロール隊』を結成しました。剣道部・柔道部・空手道部・少林寺拳法部などクラブ団体が半期ごとに担当を決め、2班に分かれて求名駅を中心とした求名地区周辺を約1時間巡回します。

犯罪被害の防止と治安向上に向けた学生達の活動には期待が寄せられ、『JIU防犯パトロール隊』には東金警察署よりジャンパー、帽子、拍子木が支給されました。



パトロール実施中

ボランティア活動(地域活性化)

学生による地域の清掃活動

城西国際大学経営学部では、「非営利組織のマーケティング」の授業の一環として、坂戸駅北口・南口周辺で「クリーンキャンペーン」を展開し、ゴミ拾いをおこなっています。坂戸市長、坂戸市役所職員、商店街の方々にもご協力をいただき、参加者が90名を超えるキャンペーンになっています。

城西国際大学では、開学以来、学友会が中心となってクラブ・サークル全体で、地域の清掃活動をしています。東金を始め、幕張キャンパス周辺、またサーフィン部は活動場所である九十九里海岸のごみ拾いを続けています。



九十九里海岸のごみ拾い活動

2008年度“小さな親切運動500万人目実行章”受賞

城西国際大学では、学友委員会やサークルによる東金・幕張・九十九里地域の清掃活動、特別養護老人ホームや児童福祉施設への訪問や学園祭への招待、吹奏楽団による慰問コンサートなど、開学時から学生や教職員による数多くのボランティア活動を実施しています。

また、大学祭で行っているバザーでの売上金を1999年から2008年までの間に、日本赤十字、アフガニスタン難民募金、千葉県福祉団体、千葉県ろう重複障害者のための施設建設、スマトラ沖地震募金、中越地震災害基金、ユニセフ国際児童基金などへ、合計2,538,272円寄付してきました。

このような活動が評価され、「小さな親切」実行章の500万人目を受章しました。「小さな親切」運動は昭和38年に発足したもので、「できる親切はみんなでしようそれが社会の習慣となるように」をその運動の原点としており、日常生活におけるさまざまな親切活動を行った全国の個人と団体に対して「実行章」を贈呈して「小さな親切」を奨励しています。

その活動の45周年という節目の年に城西国際大学が、500万人目の表彰を受けました。



表彰式の様子



滝口達也さん(城西国際大学メディア学部4年生)

「本学にはボランティアサークルが4団体ほどあり、所属している学生が施設慰問などを行なっています。このほかにも学友委員会が課外活動団体を集めて、学内外の清掃活動を実施しています。大学生として遊びもやりたい気持ちもありますが、世の中の人に役立ちたいという気持ちが強いので、日々そういったことを心がけながら、ボランティア活動を実施しています。3月には卒業しますが、社会に出てからも今までやったことのないボランティア活動にも参加していきたいと思っています」

学会・シンポジウムの開催(次世代育成・グローバル教育)

アメリカ日本文学会(AJLS)第15回学会開催(2006年7月)

東京紀尾井町キャンパスにて、アメリカ日本文学会「表象文化と旅:過去・現在・未来」が開催されました。これは学会の15回目となる記念すべき大会で、はじめてアメリカを出て日本で開催されたものです。城西国際大学学長水田宗子が大会議長を務めました。

2006年度AJLS学会では、日本文学を中心とする表象文化における旅と、その変容というテーマに対し、AJLS学会会員に加え、世界10数カ国から100人を超える応募がありました。2日間で9つのパネル発表を含む18のセッションを行いました。

基調講演には、プリンストン大学より日本美術史が専門の清水義明教授をお招きし、「A Journey's tale and a Tale's journey :Studying Japanese narrative handscrolls abroad」をテーマに、御自分の人生を旅として振り返りつつ、絵巻物研究についてのお話をいただきました。

また、城西国際大学メディア学部客員教授でもあります小松左京氏にも登壇いただき、「人間にとって旅とは何か」をテーマに時空を超越して旅のトークを展開していただきました。発表者以外の各国からの学会参加者も120人を超える大規模な国際学会となりました。



プリンストン大学清水義明教授の基調講演

◆ AJLS <http://www.josai.jp/jicpas/society/AJLS2006/japanese/>

第4回日・韓次世代学術フォーラムを開催

日・韓次世代学術フォーラムは、人文社会分野において日韓両国の新たな時代を担う次世代研究者に研究発表と相互交流の場を提供することにより、両国のこれらの分野における研究活動を底上げし、更なる活性化を目指すことを目的としています。日韓両国の次世代研究者が場を共にし、自らの学問的な関心事や研究テーマを発表し、討論し合うことで、相互の研究状況に対する理解を深めるとともに、自らの研究視野を広げることが期待できます。

紀尾井町キャンパスでは、2007年6月に「東アジアの文化交流」をテーマに第4回大会を姉妹校の韓国東西大学と共に開催しました。日韓両国から大学生、来賓、関係者を含めて約400名が出席、東アジアや日韓両国間の新たな交流促進への提言や活発な意見交換が展開されました。

また特別講演会では、韓国映画界の巨匠でカンヌ国際映画祭監督賞などを受賞した林権澤監督が登壇し、東西大学の朴健燮教授との対談形式で「林権澤映画と韓国的価値」と題し、韓国映画の動きや自身の作品である「千年鶴」「酔画仙」などについて持論を展開しました。



韓国の林権澤映画監督による特別講演

◆ 日韓次世代 <http://www.josai.jp/jicpas/society/forum/>

学会・シンポジウムの開催(次世代育成・グローバル教育)

学校法人城西大学創立40周年記念
東京紀尾井町キャンパス開設記念シンポジウム・講演会

1965年創立の学校法人城西大学は、2005年に創立40周年を迎えました。

創立40周年を記念して開設した紀尾井町キャンパスで、城西大学、城西国際大学の各学部、センターがそれぞれの分野や研究領域で時代の要請に見合う、学術的・文化的・先端的なテーマを追求するシンポジウム・講演会を開催しました。

1年間で15のシンポジウム・講演会を行い、日本国内はもとより各国から、各分野で先端的研究や活動に従事している方々のべ2000名を超える参加をいただきました。



『ドン・キホーテ』の現在—東西双方向より

シンポジウム・講演会タイトル	主催
21世紀アジアと日本の大学と人材開発	城西短期大学
大学教育とベンチャー育成	城西大学大学院 経営学研究科
ジェンダーで読む〈韓流〉ブーム—今なぜ『冬のソナタ』か	城西国際大学 ジェンダー・女性学研究所
成瀬巳喜男生誕百年記念シンポジウム	城西国際大学 メディア学部
Kurosawa in Black and White 黒澤明—モノクロの世界に惹かれて	城西国際大学 人文学部
21世紀のビジネスと人材	城西国際大学 経営情報学部
Don Quixote, East and West 『ドン・キホーテ』の現在—東西双方向より	城西国際大学 比較文化研究所 城西大学 語学教育センター
戦後60年シンポジウム 映画に見る女たちの原爆体験とその記憶から	城西国際大学 ジェンダー・女性学研究所
すばる望遠鏡で見た宇宙	城西大学 理学部
ともに生きる地域社会を創るために	城西国際大学 福祉総合学部
江戸時代の日本人は日本をどう発見したか	城西国際大学 比較文化研究所
恋愛思想の歴史—比較文化論的に—	城西国際大学 人文学部
次世代出版を考える—活字文化のオープン・プラットフォーム化による出版の新しいビジネスモデル	城西国際大学 メディア学部
未来の医療 薬学教育で出来ること—健康できれいに生きる—	城西大学 薬学部
未来の医療 薬学教育で出来ること—医療におけることと技術—	城西国際大学 薬学部

2009年5月 米国最大の映画学会を紀尾井町キャンパスで開催

米国で組織されている中でも最大の映画学会であるSCMS(Society For Cinema and Media Studies)学会50周年記念大会を、2009年5月21日から24日、東京紀尾井町キャンパスで開催します。

これは、SCMS学会から、記念すべき50周年の大会をアニメ、映画など豊かでユニークなメディアカルチャーを持つ日本では是非開催したいと、メディア学部を有する私どもの大学に共催の申し込みがあり、それを受けてのことです。

SCMS学会は、ジョージ・ルーカスをはじめとするアメリカ映画界の重鎮が支援している映画学会で、世界各国の研究者や映画人約2,000名が所属しています。4日間開催される大会では、講演会やさまざまなテーマでのディスカッション、映画上映などがなされます。この大会で、日本から映画における新たな可能性を発信したいと考えています。



アジアでの交流と支援(次世代育成・グローバル教育)

“水田三喜男記念”水田宗子奨学金授与式

学校法人城西大学では、2007年より姉妹校である大連理工大学の学生たちへ、日本と中国の良好な関係作りに尽力した創業者水田三喜男先生の名を冠した奨学金を授与しています。

この奨学金は、中国における国際人教育のため役立ててほしいという水田宗子理事長の考えではじまったものです。日本について学ぶ学生たちを支援して、永続的な日中をつなぐ人材育成に励んでいます。



奨学金を受けた大連理工大学の学生たち

水田三喜男文庫寄贈

本学創業者水田三喜男は、戦後の日本の復興に心血を注ぎ、日中国交回復にも尽力しました。正式国交回復の前段階として北斎展を北京で開き、その団長として文化交流に努めたことでも知られています。



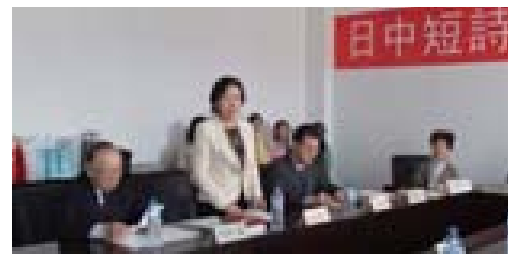
水田三喜男文庫除幕式

『水田三喜男文庫』は、大連理工大学において、日本及び国際関係を学ぶ学生たちに役立つことを目的とし贈呈を始めたものです。2008年5月には、大連理工大学にて水田三喜男記念文庫除幕式が執り行われ、これまでに政府刊行物、経済、文化、歴史、自然科学、辞典など、第1回目2007年6月28日に124冊、第2回目2007年7月30日に22冊、第3回目2008年1月27日に16冊、第4回目2008年5月20日に137冊を寄贈しました。

大連理工大学からは、貴重な資料及び図書書籍からなる『水田三喜男文庫』の寄贈を、学生の教育、国際的人材育成、並びに日本理解と日中交流の発展に資したいと、大変喜んでいただいております。

日中短詩協会設立(2008年5月15日)

学校法人城西大学は大連市の2つの大学と連携し、日中短詩協会を設立しました。短詩は、俳句、漢詩など洗練されたことばと、きめ細かい感情および豊かな想像力を通じて、社会と人間の精神世界を表現する文学であり、もっとも古い文学様式です。協会では、中国と日本の短詩型文学、特に自由律現代詩に注目し、創作や鑑賞、翻訳、研究活動を通じて、日中両国の互いの文化への造詣を深め、交流を促進することを目的としています。



設立記念総会にて

設立記念総会を大連外国語学院にて開催し、最初の句会には、大連理工大学日本語学院院長杜鳳剛先生や、大連外国語学院元院長で、中国を代表する日本現代文学研究家である陳岩先生、加えて、大連外国語学院教員、大学院生・学生、水田清子名誉理事長指導を受けていたJUI俳句会メンバーも参加、村井顧問指導のもと、アカシアを季語とした佳句が数多く出され、楽しい交流のひとつとなりました。

◆ 日中短詩協会 <http://www.josai.jp/international/JCASP/>

文化・出版活動を通しての貢献(次世代育成・グローバル教育)

U.S.-JAPAN WOMEN'S JOURNAL (日米女性ジャーナル) / Review of Japanese Culture and Society 出版活動

日米女性ジャーナルは1988年、日米間を中心に他地域を加えたグローバルな視点に立ったジェンダー研究の学術交流、情報交換を目的として創刊されました。以来、女性問題、男性問題、家族、労働、社会問題、文化研究等、幅広い分野をカバーし、学術論文、時事問題、インタビュー、資料等を掲載しています。英語で発行されており、日本のジェンダー研究・情報の海外への紹介、海外での日本研究の普及、日米比較研究の奨励を目的としています。

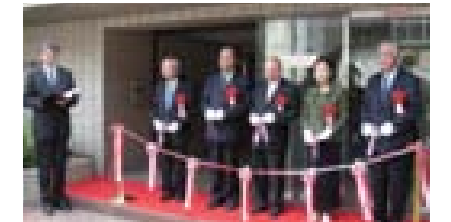


同じくReview of Japanese Culture and Societyも1986年から英語で発行されており、この2つの英文誌は、海外へ日本の文化・研究を紹介するのに大きな役割を果たしています。

- ◆ U.S.-Japan Women's Journal <http://www.josai.jp/jicpas/usjwj/index.html>
- ◆ Review of Japanese Culture and Society <http://www.josairjcs.com/>

ハンガリー文化センター設立(2007年6月19日)

学校法人城西大学は、北海道大学スラブ研究センターとともに、「日・ハンガリー協力フォーラム」の趣旨に則り、在日本ハンガリー共和国大使館、日本ハンガリー友好協会ならびに住友化学等の協力を得て、「ハンガリー文化センター」をハンガリー大使館内に開所しました。



「ハンガリー文化センター」では、これらの設立母体の連携を中心として、ハンガリー文化センター開所式わが国とハンガリーの文化・学術の相互理解、交流および発展に資するという共通の目的のもとに、両国の幅広い関係者と協力しあいながら、ハンガリーに関連する資料・情報の蓄積、整理、公開、およびウェブサイトによる情報の発信、各種イベントの企画・開催などを行っています。

すでに、2007年9月25日～27日(城西大学 坂戸キャンパス)、10月4日～5日(城西国際大学 東金キャンパス)で「ハンガリー作家二人展」を、2008年7月28日に「リスト音楽院マスターコンサート～偉大なる芸術家を迎えて」を開催しました。

◆ ハンガリー文化センター <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/hungary/index.htm>

ハンガリー文化センター開設記念コンサート(2007年10月6日)

ハンガリーの首都ブダペストにある世界的に有名なリスト音楽院に留学されたバイオリニストの萩原淑子さんとピアニストの和田さやかさんをお招きして、ハンガリー文化センター開設記念コンサートを東京紀尾井町キャンパスホールにて開催しました。



全5曲を熟演

開会にあたり、ハンガリー文化センター代表で日本ハンガリー友好協会理事長田中義具氏よりハンガリー文化センター設立の意義についてお話があり、ついで、駐日ハンガリー共和国大使館のイシュトヴァーン・ペロシヤ(Dr.Istvan Perosa)臨時代理大使閣下より、「ハンガリー・日本両国の友好関係の発展にそれぞれ力を尽くしていきましょう」とのご挨拶がありました。

お二人の演奏は、叙情的で、ときにやさしくときに激しく感情をゆさぶるようなすばらしいもので、満員となった会場の観客は、ハンガリーの音楽と文化を十分に堪能しました。また、会場には、EU加盟諸国の外交官も、多数お見えになりました。懇親会には、エルヌー・ボハール(Erno Bohar)大使閣下もご出席され、今後、ハンガリー文化センターが、ハンガリーと日本との交流活動の拠点となるための大きな意義を持ったコンサートとなりました。

同窓生との連携(次世代育成・グローバル教育)

同窓会で盛り上げる箱根駅伝応援

城西大学男子駅伝部が2004年第80回箱根駅伝へ初めて出場して以来、母校の名誉を背負って箱根路を走る後輩のために、同窓会が中心となって応援団を編成し、たくさんの同窓生が応援に参加しています。

同窓会では大学の学生部と協力して、コース上の支部である神奈川県支部・東京支部および関東近県支部に呼びかけ、東京支部から、大手町・品川駅前などへ約30人、神奈川県支部から、横浜駅前・藤沢・小田原などへ約30人、ほかに関東近県支部(埼玉中央・埼玉東上・埼玉東部・埼玉新都心・埼玉県央・群馬県支部・山梨県支部・静岡県支部)からも約70人が応援に参加しています。

応援活動では、同窓会で作成した大学ロゴ入りの青いコートを着用し、応援旗をたてています。また、沿道でひとりでも多くの方に振ってもらえるように城西大学の小旗を手渡しています。応援グッズとして、2007年には手ぬぐいとジョークせんべい、2008年にはベンチコートとエコバッグを作成しました。

箱根駅伝への出場に対しては、坂戸駅北口商店街に「祝 箱根駅伝出場 がんばれ城西大学」と書かれた旗や横断幕が掲げられ、坂戸市をあげての応援をいただいています。

箱根駅伝に加えて、伊勢駅伝、日本大学女子駅伝、全日本大学女子駅伝対抗選手権大会などでも、開催地に近い同窓会支部が中心となって毎回応援をしています。



6年連続出場している箱根駅伝

学校法人城西大学維持協力を発足(2007年11月1日)

学校法人城西大学では、大学の教育・研究の一層の充実発展を継続的に支援していくための組織として、2007年11月1日に学校法人城西大学維持協力を発足させました。

大学をめぐる環境は、ここ数年で劇的に変化を遂げています。それを受けまして、学校法人城西大学維持協力会としては、同窓生だけでなく、城西大学の人材育成に共感して下さる企業、地域の方々などの多くの方の期待と応援の気持ちをダイナミックに活かしていきたいと考えています。

会の発足後、城西大学・城西国際大学・城西短期大学それぞれの大学が、特徴を活かして大きく飛躍できるよう、支援活動を幅広くすすめてきました。おかげさまで、すでに多くの同窓生や企業から賛同を得て、ご協力をいただきました。

教育活動を持続的に発展、向上させていくための奨学基金の構築ならびに、来る城西大学創立50周年、城西国際大学創立20周年に向けて、両大学の創立記念事業の企画・運営についても積極的に支援し、意義深い周年行事ができるようにと考えております。



学校法人城西大学維持協力会 会員特典について

- 大学施設の利用、教育プログラムへの参加優遇(大学宿泊施設の特別割引、図書館の無料利用、大学内書店で学生同様の特別割引、生涯教育・エクステンション講座入会無料など)
- 会報、メールマガジンの発行

◆ 学校法人城西大学維持協力会 <http://www.josai.jp/support/>

同窓生との連携(次世代育成・グローバル教育)

JIUグローバルユースクラブの発足(2008年11月1日)

城西国際大学同窓会が組織する委員会として、2008年11月1日、JIUグローバルユースクラブ(JGY)が結成されました。

JGYとは、留学や海外研修等、城西国際大学の海外教育プログラムに参加した経験を持つ同窓生、あるいは、社会で国際的に活躍している同窓生、また、国際的な活躍を志し、国際的な交流とネットワークを広げたい同窓生等を主体とした集まりです。

今後は、同窓生の立場から城西国際大学における国際人育成を支援し、同窓生の国際的活躍の環境を作ることで、城西国際大学の発展に寄与することを目的として活動していきます。

2008年11月3日には、会の発足を記念してJIUグローバルユースクラブ会長の安達満さんからフランスでの経験を聞く会、12月17日にインターナショナル子どもクリスマスパーティを主催し、また、12月19日には、城西エクステンション・プログラムで行われたカヤガムレクチャー&コンサートを後援しました。

2008年12月には、紀尾井町キャンパスに街の景観にふさわしく、また学生の気持ちを高める大きなクリスマスツリーを贈呈するなどの活動もしています。



贈呈されたクリスマスツリー

留学生同窓生とのネットワーク作り

・留学生学友会

城西国際大学では留学生学友会を2008年9月17日に立ち上げ、留学生センターと協力して留学生同窓生とのネットワークを深めています。

留学生学友会では、JIU国際交流会館での交流パーティーや東金市内のお家で茶道体験、学祭での模擬店の出店、東金国際交流パーティーへの参加、成田山新勝寺・国立歴史民俗博物館で日本文化体験などの行事を通じて、日本人学生はもちろん、地域の方々、留学生同士、留学生同窓生との交流の場をサポートしています。



もちつきを体験

◆ 留学生学友会 <http://www.jiu.ac.jp/campuslife/international/index.html>

・JIU留学生クラブ

中国上海で、卒業生大輪文夫君(人文学部2006卒業)と甘露さん(メディア学部2006卒業)が、2007年12月「JIU留学生クラブ」を設立しました。大輪文夫君が主宰する上海飛鳥進修学校大輪日本語教室を拠点に、今後、海外にいるJIU卒業生ネットワークの構築、母校との交流の場を広げていきます。

2008年5月には第1回JIU留学生同窓会が開催され、参加した同窓生はそれぞれの近況を、また、城西国際大学からは留学生センターの孫根所長が参加して、大学の活動についてみなさんに報告しました。

NPO法人「ネットワーク日本」 <http://www.network-nippon.org>

2009年1月22日に、日本で学んだ経験のある元留学生と日本のパイプづくりを目指して設立。首都大学東京理事長の高橋宏氏が発起人となり、官界、財界、大学から多くの賛同者らが、役員に名を連ねており、水田宗子理事長も理事を務めています。

房総地域の活性化(次世代育成・地域活性化)

みね おか
嶺岡林道桜並木修復プロジェクト

昭和40年代、創設者水田三喜男は、嶺岡林道の保全と郷土の活性化を願って、多くの地元のみなさんとともに500本の桜を植栽しました。これらの桜は、「水田桜」として親しまれてきましたが、30年以上経た今、残っているのは半分の250本ほどになっています。

大学では、先人たちの想いを継いで、2006年に「嶺岡林道桜並木修復プロジェクト」を立ち上げ、観光学部の学生たちが修復活動をはじめました。30年の時を超えてつながった並木修復プロジェクト(右写真参照)は、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の歴史を調べ、その周辺に残された自然や文化について学び、環境について考え、そして地元のみなさんとともに植栽や桜の手入れ、下草刈りなどを進め、並木を後世に伝えていくことを目的としており、鴨川観光協会長や千葉県議会議員のほか企業からも後援をいただいております。

今後、私たちは「嶺岡林道桜並木」を鴨川市の新たな名所に育てる計画です。



植樹する創設者 水田三喜男(1976年4月11日)



地元曾呂小学校の子どもたちと(2006年10月27日)

そ ろ
曾呂尋常小学校分教場跡地に石碑建立

村の中央までは程遠いので、低学年の児童は本校に通うことができず、四年生までは分教場で授業を受けることになっていた。一年から四年までの四十人に満たない児童が一つの教室で先生に教わったのだから、なつかしい思い出は多い。
(水田三喜男自伝『落のとう』より)

学校法人城西大学創設者水田三喜男先生が明治から大正初めにかけて学んだ鴨川市西区の曾呂尋常小学校分教場跡地に石碑が建立され鴨川市に寄贈されました。

この分教場は明治7年、全国的にみてもきわめて早い時期に、この地域で開校した4つの小学校の一つで、昭和42年の廃校まで、90年の長きにわたって郷土の多くの人々を育ててきました。

この地で生まれ、この分教場で学び、大きく成長、政治家としての責務を果たす傍ら、国と社会に有用な人材育成のため、「学問による人間形成」を建学の理念として学校法人城西大学を創立した人間水田三喜男の遺徳を偲び、2008年1月25日、多くの分教場卒業生、多数の地域の皆様、曾呂小学校の児童など200人以上の地元の方々が参列される中、水田宗子理事長はじめ皆様の手によって石碑の除幕が行われました。

除幕に引き続き、参加者全員による桜の植樹、曾呂小学校児童の獅子舞が行われました。城西国際大学は、今後とも、水田三喜男先生が生まれ育った郷土の人々との変わることのない心の交流を続けていきたいと思っております。



石碑除幕

文化財産の保存・共有(次世代育成・地域活性化)

両大学に水田記念美術館を設置しています

・城西大学水田美術館

水田美術館は、創設者である水田三喜男初代理事長が収集した浮世絵のコレクションを母体として1979年3月に開館しました。

水田コレクションでは、浮世絵の肉筆画・版画を併せて所蔵し、その発生期である江戸時代初期から近代日本画に至るまでの発展過程を香り高い優品によって概観することができ、保存状態も良好です。

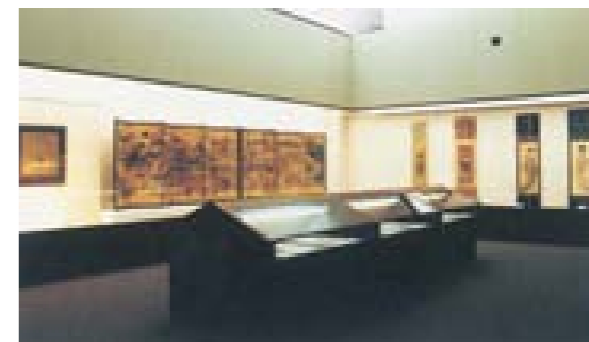
収容内容としては、人物画をテーマに、菱川師宣、懐月堂 城西国際大学 水田美術館 安度、勝川春章、喜多川歌麿、葛飾北斎等の肉筆美人画および鳥居清培、石川豊信、鳥居清長、喜多川歌麿、東洲斎写楽等の浮世絵版画二百余点を所蔵しています。特に、東洲斎写楽の作品は「松本米三郎のけはい坂の少佐実はしのぶ」など稀版画を含む9点をコレクションしています。また、創立家の寄贈により、新たに鈴木春信の名品「六玉川」が水田コレクション入りしました。入学式・卒業式・高麗祭の時に一般の方々に特別公開しています。

・城西国際大学水田美術館

2001年4月、3階建ての水田記念図書館の1階に、開学10周年を記念して開館しました。所蔵している「水田コレクション」のほか、よい作品を収集することに力を入れています。

開館以来、大学行事にあわせて、春秋の「水田コレクション展」と、浮世絵に関する内容や、大学・地域に縁のあるテーマで企画展を開催し、講演会やトークイベント、当館学芸員によるギャラリートークを行っています。また、水田コレクションの検索ができ、スライドショーも楽しめるデジタルアーカイブコーナーもあわせてご利用いただけます。

学生の学びの場であるとともに、地域の方々に親しんでいただける文化施設を目指しています。



東洲斎写楽
二代目瀬川富三郎の大岸蔵人の妻やどり木
大判錦絵



このたび、水田家より大学美術館へ名品鈴木春信の《六玉川》が寄贈され、特別公開されました。

《六玉川》の6図がすべて揃うのは、NYメトロポリタン美術館と今回寄贈された2セットのみです。

さらに、この水田家所蔵の《六玉川》は、保存状態が極めてよく、摺られた時の色が鮮やかに残るもので、多くの美術品関係者から絶賛されています。特別公開での来訪者も美しい色合いに感激しきりでした。

鈴木春信(1724?~1770)
明和4年(1767)頃
《六玉川 高野の玉川》むたまがわ こうやのたまがわ

◆ JU 水田美術館 <http://www.josai.ac.jp/~museum/>

◆ JIU 水田美術館 <http://www.jiu.ac.jp/museum/index.html>

文化財修復・保存(次世代育成・地域活性化)

水田三喜男生家を修復、保存～そして文化財登録へ

・水田家の由来

旧水田家がある旧曾呂村(鴨川市)は、嶺岡山脈の南麓を東から西へ通じる道を中心とした五百戸余りの山村で、嶺岡山は、わが国酪農の発祥地として知られています。

江戸時代からこのあたりでは毎年5月、大変なにぎわいの中、馬捕りの行事が行われており、そこに幕府の役人が来て牛馬を見定めする場所を陣屋と称しましたが、庄屋のような役割を果たし、村の指導的立場にあった水田家は、この陣屋と地続きとなっていました。また、江戸後期につくられたこの家は、大正12年の関東大震災でも近隣の建物がほとんど崩壊した中でも、無事に残りました。

・旧水田家住宅の特徴

「重厚な長屋門の入口が額となって、茅葺の寄棟造の母屋が望まれる。東側を土間とし、囲炉裏を切った15畳の座敷を中心に、5室からなる豪農の家である。西側に縁側をそなえ、南面に瓦葺の下屋を差し掛けた房総民室の特徴を示している。

長屋門の左右には、それぞれ牛小屋が置かれ、かつて嶺岡牧場と関わる酪農を営んでいたことを物語っている。

これら母屋、長屋門は、優に百数十年以上経て居り、貴重な文化財として、文化庁に登録されているが、篤農の堅実さと、安房特有の進取の気象の見事な結晶といってよい。また、この家屋の一隅にある書齋から、遠き潮騒を夢見ながら、ひとりの有為な青年が巣立っていった。城西大学の創立者、水田三喜男である。戦後の日本経済再建の偉業は、そのまま継承され、「学問を通じての人間形成」の理念となった。その母胎こそ、まさに、この家屋なのである。」とのコメントを城西国際大学前水田記念図書館長井上辰雄氏が寄せています。

・修復事業

この生家を、同窓生が呼びかけて、城西大学同窓会30周年記念事業として、創立者の偉業をたたえ、城西大学の建学の精神はもとより後世にその功績を伝えるため、修復・保全に取り組みました。

創立者が過ごした当時の姿を取り戻した生家では、昔の酪農家の暮らしぶりや古い建物に見える工夫を実際に目にすることができ、同窓生や学生をはじめ、留学生や地域の子供たちが数多く訪れています。また、桜やノボタン、新緑や紅葉の季節に合わせて何度も訪れる方や、遠方からわざわざいらっしゃる方もいて、平成14年に一般公開を始めて以来、毎月400名ほどが見学されています。

・文化財としての価値

平成14年に、長屋門と母屋が国の登録有形文化財として登録されました。また、地域の特性や周辺の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。



修復後の長屋門



母屋



◆ 旧水田家住宅 <http://www.jiu.ac.jp/mizutake/index.html>

建築賞受賞(次世代育成・地域活性化)

多数の建築賞を受賞しています

❖ 清光会館

1992年さいたま景観賞

清光会館は、新しい大学に求められる国際化・情報化に対応し、1992年に完成した城西大学の中枢を担うシンボリックな建物です。城西大学の学術・文化のシンボルとして、集中管理された高い機能と充実した施設・設備を誇っています。

同年、秩父の丘陵を望むその美しい外観によって埼玉県景観賞を受賞しました。



❖ 清光会館

❖ 鋸南セミナーハウス

2005年度 第12回 千葉県建築文化賞「景観に配慮した建築物」
2006年 第32回 東京建築賞建築作品コンクール「優秀賞」

鋸南セミナーハウスは創立35周年を記念して、同窓会の協賛もいただき平成16年に建設されました。

豊かな自然を取り込むための半野外空間の構成に重点を置き、木目の奥行きのある内外のリズミカルなシーンの展開により、美しいたたずまいとなっています。その心地よさと周囲の景観にふさわしい建物であることが評価され、千葉県建築文化賞と東京建築賞において「優秀賞」を受賞いたしました。



❖ 鋸南セミナーハウス

❖ 城西大学 経営学部棟

2008年 全米建築学会 Merit賞

城西大学経営学部棟は、米国建築家協会(AIA: American Institute of Architects) ニューヨーク支部より2008年度メリット賞を受賞しました。

AIAは2008年度にはじめて教育的な建物(2001年1月11日以降完成の建物)についての部門を設け、その栄えある第一号を経営学部棟が受賞しました。

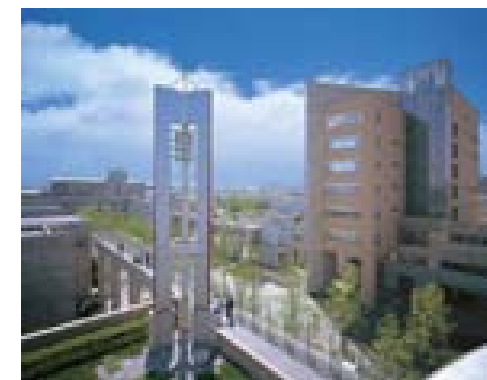


❖ 城西大学 経営学部棟

❖ JIUランドスケープデザイン

1996年日本建築学会賞
2006年度日本造園学会賞

城西国際大学では、自然景観と調和したキャンパスを目指してきました。そのランドスケープデザインに対し、「端正な中にも透明感と伸びやかさ」がある「成長するキャンパス」との評価を受け、日本建築学会賞と日本造園学会賞を受賞しました。



❖ JIUランドスケープデザイン

❖ 旧水田家住宅

2003年度 第10回千葉県建築文化賞

地域の特性や周辺の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。

※写真については、P21をご覧ください。

子どもたちとともに(次世代育成・グローバル教育)

千代田区児童館との共催で、2006年ニューイヤーコンサート・餅つき大会を開催

2006年1月14日11時より、学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパスで、城西国際大学吹奏楽団によるニューイヤーコンサートと、もちつき大会を開催しました。雨にもかかわらず、約200名の親子の参加がありました。

吹奏楽団は、千代田区児童館ともよく話し合いをして、子どもたちの喜ぶような曲(ハウルの動く城、となりのトトロ、サザエさん、マイアヒ、世界に一つだけの花、マツケンサンバなど)を選曲、楽器の説明をユーモラスに行いました。また歌詞カードを配るなどさまざまに工夫をこらして、子どもたちの興味を惹きつけて、1時間を越える演奏会でしたが小さい子どもたちは、ぐずりもせずに熱心に聞き入っていました。

その後、キャンパス入り口で児童館の指導のもと餅つきがはじまると、取り囲んだ子どもたちのよいしょよいしょのかけ声が、大きく紀尾井町にあがりました。子どもたちが長い列をつくり、小さな杵で楽しそうに次々餅をつきました。

子どもたちが、「コンサートとっても楽しかった。おもちつきも楽しかったし、おもちもおいしかった。またね。」と笑顔で帰っていったのが、何よりうれしいことでした。



たくさんの子どもたちが、もちつきを体験

キッズ・ライブラリーをオープン

2008年12月17日、JR成東駅前の城西国際大学インフォメーションセンター内に、子どもの書籍を集めた「キッズ・ライブラリー」がオープンしました。オープニングは、4歳から6歳の子どもたちも参加してテープカットでスタートしました。椎名千収山武市長、志賀直温東金市長、三宅英雄城西国際大学協力会会長、そして小学校・幼稚園・保育園の先生方など50名以上の方々にご列席いただき、お祝いの言葉と子どもたちへのメッセージをいただきました。



絵本に囲まれた子どもたち

キッズ・ライブラリーに所蔵されている図書は、すべて寄贈によるものです。これらは、地域の方々、ご父母の方々、教職員、そして、海外姉妹校(ノルウェー、イギリス、ハンガリー、中国、韓国、アメリカなど)からも、子供に読ませたい良書を選んで、寄贈いただいたものです。

今後、本学に留学にきているノルウェーやハンガリー、韓国、中国の学生たちが、読み聞かせの時間も企画しており、外国の絵本や物語、そしてその国の言葉に触れることで、子どもたちの世界は大きくひろがっていくことでしょう。

ここで、あちこちの国の絵本に触れた子どもたちが、いつの日か物語の生まれた国を訪れ、その国と日本をつなぐ架け橋になり、素晴らしい未来を築いてほしいと城西国際大学は願っています。

園児とインターナショナル・クリスマスパーティ

2008年12月17日、城西国際大学では、東金市内にある保育園のこどもたちを招待して、クリスマスパーティを開催しました。会では、福祉総合学部子ども福祉コースの学生や留学生が、園児たちと人形劇や歌遊びなどで交流しました。また、中国や韓国、ノルウェー、ハンガリーなどからの留学生と一緒に「ジングルベル」を日本語、中国語、韓国語、英語でそれぞれ歌って世界各国のクリスマスムードを楽しみました。



ジングルベルを合唱

このイベントは、城西国際大学の卒業生でつくるJUグローバルユースが後援しています。

政策提言による社会貢献(次世代育成)

千葉県「大学と連携した魅力ある観光地づくり推進事業」委託

城西国際大学観光学部では、平成19年度に千葉県から「大学と連携した魅力ある観光地づくり推進事業」の委託を受けました。これは千葉県の観光における課題に取組み、観光の持続的発展に寄与することを目的とするものです。

本学ではこの事業を委託される以前から、千葉県主催の「観光立県セミナー」に多数の講師を派遣し、新しい視点と刺激を各地域の方々に提供してきました。また、県、鴨川市と協力して、大学構内を解放して地域の物産を販売する「朝市プロジェクト」を立ち上げるなど、新しい視点からの「旅行企画」についても千葉県に提言を行ってきました。

千葉県の観光に関する研究成果を、「フォークソリズム(民族文化観光)プロジェクト～民話や民俗芸能の伝統文化と若者たちのフュージョン効果～」、「滞在型観光地域振興プロジェクト～鴨川市太海地区活性化への提言～」として発表するなど、活発に観光振興策を発信しています。



きさっせ鴨川(朝市)の様子

現代政策研究センターを設立

2008年9月に設立した、現代政策研究センターは、今日その解決が真剣に検討されている、地球規模の環境問題、少子高齢化社会の問題、高度医療・福祉社会の出現、地域格差と再生・活性化といった多くの課題を本学教員だけでなく、多くの専門家の参加を得て、共同で研究する場です。その研究過程・成果を速やかにかつ継続的に大学での教育に反映させ、期待される人材育成に繋げることを目的としています。



設立記念講演

センター内には「城西 中山・嶺南物流研究センター」「日中産業政策研究センター」「高齢社会政策研究センター」を設置し、姉妹校の中国中山大学との物流研究プロジェクト、オスロ大学・広東女子職業技術学院と高齢社会における女性の学び直しの共同プロジェクトを進めています。

NPO法人日本医療政策機構と共催で「がん」シンポジウム

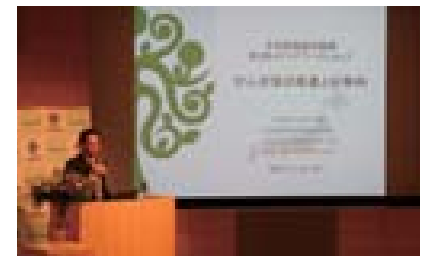
学校法人城西大学は、問題が山積みとなっている現代の医療について、解決に向けた政策提言ができるよう、NPO日本医療政策機構を支援しています。

2008年10月には、地域によってがん対策に大きな差がでているということをジャーナリストのみなさんに理解してもらうため、ワークショップを紀尾井町キャンパスで開催しました。

ワークショップでは、日本医療政策機構 市民医療協議会の乗竹亮治氏より、がんシンポジウム イントロダクションとして「がん政策サミット開催のご報告」、続いて講演「がん対策の格差と好事例」を日本医療政策機構 がん政策情報センター長埴岡健一氏にいただきました。

日本医療政策機構の患者支援部門である「市民医療協議会」では現在、「がん政策情報センタープロジェクト」を推進中で、都道府県別のがん対策格差を浮き彫りにし、各地にあるがん対策の好事例を共有し、対がん戦略に取り組む人々の全国ネットワークを形成することで、日本の対がん戦略を大きく前進させようとしています。最新の取り組みや全国各地の事例を、報道の最前線で活躍しているジャーナリストの皆さんに紹介し、その差が解消されるためにはどのような手順と方法が必要なのかを考える会となりました。

地域や病院ごとのがん戦略への取り組みを正しく把握し、改善するためには、その指標がきわめて大事であり、今後は城西大学も指標選択の相談に乗っていくことになりました。



がんシンポジウム

「城西大学に望む国際交流」

日本ハンガリー
友好協会理事長
田中 義具氏



世界の一体化への動きが進む21世紀において、城西大学は、かかる時代の趨勢を踏まえた次世代育成への取り組みを強化しておられます。私はそうした中で、外国人留学生への取り組みと日本人学生に外国で有意義な体験を積ませる取り組みを特に重視しています。

外国人留学生に対しては、一定期間で日本語が使える能力を習得させる集中講座の充実が鍵を握っていると確信しており、また大学図書館での検索サービスを充実させて、日本に関するあらゆる分野の外国語文献に容易にアクセスできる体制を整備することが肝要と考えます。

また、日本人学生には、海外で自分たちが交流する大学が存在する国の言葉、歴史、文化等について、事前に十分な知識を身につけさせて交流させることが効果的です。私は、自分に縁の深いハンガリーとの交流を進めている当大学が、東京では唯一のハンガリー語講座を持つ大学でもあることを大いに歓迎しています。

「地域の活性化につながる城西大学の社会貢献活動」

埼玉県知事
上田 清司氏



学校法人城西大学におかれましては、多彩な社会貢献活動を実践し、地域社会において大きな成果をあげられています。本県ともリカレント教育に関する協定を締結し、多くの県民に学びの場を御提供いただいておりますことを厚く感謝申し上げます。

私は、チャンスにあふれた社会を実現したいと日々考えています。知的資源を持つ大学が地域や企業、自治体との連携を深めていくことは、地域の魅力を高める大きなパワーとなり、大学にも地域にもより大きなチャンスをもたらします。こうした取組を進められている城西大学の御活躍を大変心強く思いますとともに、深く敬意を表する次第です。

多くの皆様にこの冊子をお読みいただき、社会貢献活動への理解と関心を深めていただきたいと思います。

結びに、城西大学の更なる御発展を祈念申し上げますメッセージとさせていただきます。

「医療改革への政策提言に向け、ともにできること」

特定非営利活動法人
日本医療政策機構
理事
埴岡 健一氏



当機構は、「市民主体の医療政策を実現すべく、中立的なシンクタンクとして、幅広いステークホルダーを結集し、社会に政策の選択肢を提供すること」をミッションとする超党派・民間・非営利の医療政策シンクタンクです。

2008年10月10日、城西大学紀尾井町キャンパスにおいて、メディアワークショップ「がん対策の格差と好事例」を開催いたしました。がん対策に関しては、都道府県ごとに大きな格差が生まれていますが、格差の解消に向けた政策提言につなげていくには、正確なデータを集め、メディアを通じて発信することが不可欠です。ワークショップにおいては、城西大学副学長兼薬学部長の白幡晶先生より、「地域や病院ごとのがん戦略への取り組みを正しく把握し改善するためには、その指標の設定がきわめて重要であり、その指標策定に取り組むたい」との話がありました。

よりよい政策提言をなしていけるよう、今後も城西大学との連携に大きな期待を寄せています。

◆NPO法人日本医療政策機構 <http://www.healthpolicy-institute.org>

「中国との国際交流の先達として」

大連理工大学
外国語学院院长
杜 鳳剛氏



2008年10月6日、再び城西国際大学を訪問しました。秋季留学生の入学式に出席するためです。まったくの偶然ですが、私が22年前、留学ではじめて日本に来たのは、この10月6日でした。現在は大連理工大学に勤めておりますが、当時は大連外国語学院日本語科を卒業、そのまま残り、大連外語の助手をしていました。今回の訪問は、本来、大連外語学院の劉利国院長もご一緒の予定でしたが、急用ができて来られなくなったので、代わりに大連外語学院からJIUにはじめて送り出した留学生の様子を見てくれと頼まれました。自分の「はじめて」を思い出しながら、感動もあり、不安もありました。ところが、学生諸君の明るく元気な顔を見た瞬間、不安がなくなり、感激いたしました。留学生の寮も見学し、「これは地元の方から頂いた野菜です。」「これも…です。」地元と連携して様々な面から留学生をサポートするJIUのグローバル教育に取り組む姿勢が、垣覗きでうかがえ、感心しました。

城西大学は、早く20世紀の70年代から、中国との交流を始めていました。国同士の相互理解を促進するには、教育における国際交流が果たす役割は大きいものです。城西大学、城西国際大学は教育における国際交流の先達です。共同研究、人材育成、多岐にわたる両大学間の交流を企画している中、本学としては、城西大学、城西国際大学から学ぶことが多々あると思います。

編集後記

2008年度学校法人城西大学「大学の社会的責任を果たすために」(社会貢献活動報告書)をお届けできることを大変うれしく思います。これは、本法人にとりまして、第一回目の作成であり、2008年までの代表的な社会貢献活動について、次世代育成、健康推進、グローバル教育、地域活性化をキーワードに、地域・社会貢献、国際社会への貢献、文化振興・文化資源保存活動の分野に分けて、本学での取り組みを紹介致しました。今後も皆様に報告を続けてまいります。

この報告書により城西大学・城西国際大学・城西短期大学の活動にご理解をいただくとともに皆様から忌憚のないご意見をお寄せいただければ、幸いです。

学校法人城西大学 法人本部
社会貢献推進チーム
社会貢献活動報告書作成チーム

〈表紙デザインについて〉

安房キャンパス太平洋デッキから臨む初日の出

高台から太平洋を見渡せる絶好のロケーションとして「ちば眺望100景」にも選ばれている城西国際大学安房キャンパス「太平洋デッキ」から、初日の出を地域のみなさんと拝むというイベントを観光学部の開設以来続けています。

房総で生まれ育った創立者水田三喜男が、日本の戦後の夜明けを拓いたように、そして、日本で一番最初に昇るこの朝日のように、私どもの大学でも誠実に継続的にそして意義のある社会貢献活動を行っていきたくと考えています。

